

令和7年度 大阪府立光陽支援学校 第1回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	川村 典子

開催日時	令和7年6月30日(月)
開催場所	本館1階 図書室
出席者(委員)	小田 浩伸(会長) 平賀 健太郎(副会長) 鎌倉 義雄(委員) 川本 直也(委員) 溝口 有香子(委員)
出席者(学校)	川村 典子(校長) 道前 光司(事務長) 藤原 博之(教頭) 西山 三穂子(教頭) 藤原 克行(首席) 赤星 哲也(首席) 菊池 亮輔(首席) 佐藤 薫(指導教諭/病弱部主事) 網中 有里(指導栄養教諭) 澤 綾子(指導養護教諭) 佐々木 敦子(中学部主事) 上田 康司(高等部主事)
傍聴者	なし
協議資料	下記議題関係資料

議題等(次第順)
(1) 校長挨拶 (2) 「学校運営協議会委員」及び「事務局」自己紹介 (3) 「学校運営協議会会長及び副会長」の選出 (4) 「学校運営協議会実施要項」、「学校運営協議会傍聴に関する要領」の確認 (5) 本年度の予定 (6) 本年度「学校経営計画」について (7) 意見交換 (8) 教頭挨拶
協議内容・承認事項等(校長より内容説明)
(1) 校長挨拶 ・急激に暑さが強まり、教育活動の内容を考え直さないといけない時代に入ったと感じている。赴任して3か月の間、本校の実態把握に努めてまいり、また先生方との面談を重ねる中で少しずつ本校の姿が見えてきている。本日はそれぞれの立場から、ご指導ご助言をいただきたい。 (2) 「学校運営協議会委員」及び「事務局」自己紹介 (3) 「学校運営協議会会長及び副会長」の選出 ・会長に大阪大谷大学 小田様、副会長に大阪教育大学 平賀様を、全員一致で信任。 (4) 「学校運営協議会実施要項」、「学校運営協議会傍聴に関する要領」の確認 ・昨年度より変更点なし (5) 本年度の学校運営協議会の予定

・第1回6月30日、第2回12月8日、第3回2月実施の3回開催予定

(6) 本年度「学校経営計画」について

●校内の舗装工事について

本校の地盤沈下は積年の問題であり、今年度より3カ年計画で夏休み期間中に校内補修工事を行うこととなった。第1期（令和7年度）は通学バスターミナル及び周辺の舗装の改修等、第2期（令和8年度）は給食室周辺の舗装の改修、渡り廊下のシャッターの撤去等、第3期（令和9年度）は本館東側の舗装の改修の予定になっている。

●「めざす学校像」については2つの側面があり、これらは関連するものではあるが、切り分けて考えている。

①児童生徒一人ひとりの「自立と自己実現」に向けた教育実践

・質の高い実践の土台である“教師力の向上”＝「学び続ける教師」を目指し、職員会議を活用し、知識の共有と知見を深める取り組みを継続して行っていく。授業設計の基礎を共有し、また授業参観週間や校長による授業見学を行い、フィードバックを介して授業改善につなげる。

・自立活動については、全体の42パーセントの教員の目標設定にあげられている。専門的な手法を新たに学びたい、日々の指導において助言をもらいたいなどの要望も上がっているが、これについては校内の指導体制に関わることであり、今後検討していく。

・病弱部門について、肢体不自由部門と共通する点はあるものの、全く独自の専門性が求められる特別支援教育だと認識している。そこで、病弱部門のグランドデザインについて、教員からの考えや思いを集め、部内研修を通して作成する計画である。

・人権に関わることは、各学部で定期的な振り返りを行っているが、これについて慣れや惰性になることなく継続していくことが肝要だと考えている。

②地域社会への「多様性社会の実現」

経営計画通りに進んでおり、首席が中心となって地域に開かれた学校をめざした取り組みを積み上げてきたことを実感している。経営計画には記載がないものでは、「こうやんカップ」の開催、「ポッチャ甲子園」の全国大会出場、また「ふるさと納税・夢プラン」は大阪府母校応援ふるさと納税制度を活用したもので、旭区にある各駅にポスター掲示を行っている。

●在籍する児童生徒の多様化やICTの急速な進化、働き方改革が謳われる今、数年後には新たな学習指導要領が改訂となる。変化の激しい時代において、高い専門性を有する学校を目指しながら、児童生徒、保護者、教職員のウェルビーイングを高めたい。全校的なカリキュラムマネジメントについて対話と学習を軸に進めていき、めざす学校像を具現化していく。

(7) 意見交換〈下欄に記載〉

※その他、事務局出席者より報告

○ポッチャ甲子園の全国大会出場が決定→予選など『光陽サンサンホッターズ』の取り組みを動画で紹介

○『光陽GOGOフェスティバル』について→今年度は工事の関係で実施なし。来年度開催に向けて内容含めアップデートづくりに取り組んでいる。

○大阪病弱教育研究会について報告→今年度は本校が幹事校として、夏・冬にそれぞれ研究大会と交流会を行う。夏の大会には、本校学校運営協議会の委員である平賀先生にご講義いただく。

○病弱部門の学習の様子を写真や動画で紹介→総合分教室の運動会には“こうやん”が駆け付け、子供た

ちに大好評であった。公大分教室や訪問教育の土曜参観ではミニ運動会を行ったり、社会科の授業では参観に来てくれた保護者に対して都道府県クイズを子供が発問したりするなどの取り組みがあった。

○安全・安心力の向上を目指して、大災害時の医療的ケアの対応や救護体制において取り組んでいく。

○高等部では卒後における進路指導を大切にして、「誰とでもできる」をテーマに生徒の自立を促す。

○中学部では今年度より職場体験実習を実施する。初年度は校内での取り組み「こうやんマーケット」を実習に置き換え実施し、次年度以降の取り組みの継続と発展につなげていく。『こうやんマーケット』では成果物の制作・販売を行う。

(8) 教頭挨拶

委員からの意見の概要

・たくさんの課題があると思うが、子供の実態を考えてできることから取り組んでいただきたい。教師力をつけることも大事だと思う。目の前の子供たちに今できることは何かということが一番に考えて、教育活動を進めてほしい。

・「学び続ける教師」を目指しての取り組みは素晴らしい。授業とはなんなのか、当たり前のことのように思うが、取り組みを進めていく中でずれていくことはよくあるので、そのことを意識することが大事なのだと思う。

・現在、生徒のほとんどがデイサービスを利用している。事業所との情報共有について、もう少しスムーズに進めていく方法があればいいなと感じている。日常生活の場面もそうだが、災害時などに協力して対応できるのではないかと。ボッチャでの交流を楽しみにしている。

・時代に合わせてアップデートしていくことを大切にしていることがよくわかった。

・病弱部門のグランドデザインは全体方針ととらえていいか。一緒に考えていけるものあれば、協力したい。病弱部の子どもたちには感性の繊細さと自己肯定感の低さを感じた。それに関わる教員に求められるのはカウンセリング・マインドであり、病気の理解が求められる。疾患自体も多様化している。グランドデザインを作りながら、自分たちの大事にしていることが明確化できるのではないかと。

・保護者として先生方の42%が自立活動を充実させたいと思っていただけていることが有難い。病院のPTやOTの様子を保護者の依頼で見学してもらい、それを授業に取り入れていただくことがよくあるが、学校側から見学希望をどんどん挙げていただけるとうれしい。

・対話と学習について、大切な視点だと思う。建設的な対話ができることで、合意形成が早くなる。

・自立活動を充実させたいという願いにどう応えるのかがいいか、研修のあり方などが課題になるのではないかと。

・質を高めて、効率化を図る視点でAIの活用についても考えていかなければならない世の中であると感じる。それが働き方改革ともつながる。AIに何ができるのかを知っておくことが大事。AIを使わないというのではなく、使う際のルール作りが大切である。

・病弱教育の夏の研究会は大きな意義がある。そこに参加される地域の学校の先生方に対して、本校がセンター的機能としての役割を果たすことになる。

・いつでも、だれとでもできる人間を育てる教育は心を安らかにすることと同意だと思う。個別の教育支援計画の中で、心を育てる目標設定につなげていければいいと感じる。

・視覚的な情報は、何よりもわかりやすい発信方法になる。そういう手法で、校内の取り組みをどんどん発信してほしい。

次の会議日程

日時	令和7年12月8日(月) 予定
会場	大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室